

9:30 ▶ 9:35		開会のご挨拶 K-0 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会				
9:35 ▶ 10:25		基調講演 K-1				
 株式会社ヒューマンルネッサンス研究所 代表取締役社長 立石 郁雄 氏		経営の羅針盤「SINIC理論」と価値創造 ～未来からの変革～ 社会のニーズを先取りした経営をするためには、未来の社会を予測する必要があるとの考えに基づき、オムロン創業者の立石一真らが提唱した「SINIC理論」。科学・技術・社会が相互に影響しあうことで社会が発展するという考えに基づくこの未来予測理論を1970年に国際未来学会で発表して以来、オムロンでは経営の羅針盤として、未来からのバックキャストによる新たなニーズづくりや事業創造をはじめ、さまざまな価値創造を実践してきました。SINIC理論が予測する未来像や、オムロンにおける未来起点の価値創造の実践の歴史、よりよい未来を自ら手繰り寄せていくための現在の挑戦事例などをご紹介します。				
10:40 ▶ 11:30		特別講演 K-2				
 株式会社セールスフォース・ジャパン 代表取締役会長 兼 社長 小出 伸一 氏		AIエージェントを駆使して新たな価値を創出しよう ～企業の取るべき行動とは～ 不確実性が高まる時代において、日本企業は様々な解決すべき社会課題を抱えています。これらに柔軟かつ迅速に対応していくテクノロジーとして、AIエージェントへの期待が高まっています。一方、AIエージェントを効果的に導入するには、人材・スキル、推進体制、データ、運用業務、導入プロセスなどの環境を整備することが非常に大切です。本講演では、これらを組み立てていく上で、企業が考慮すべき観点と検討指針を提案します。				
11:45 ▶ 12:35		基調パネル K-3				
 全日本空輸株式会社 上席執行役員グループCIO デジタル変革室長 加藤 恭子 氏		 東京ガスiネット株式会社 取締役会長 嶋谷 あゆみ 氏	 日揮ホールディングス株式会社 専務執行役員 CHRO 花田 琢也 氏 ファシリテーター： 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS) 専務理事 島 健夫 変革のフロントランナーと考える、「価値創造」への挑戦 変わりゆく社会の中で、企業が未来を描き、持続的に成長するためには、自社のあり方を問い直し、変革を推し進め、新しい「価値創造」へ挑戦する必要があります。本セッションでは、時代の変化をリードし、新たな価値創造に挑戦し続ける登壇者3名が、自身が考える「新たな価値とは何か」、「これから挑むべきことは何か」、「挑み続けるためには何が必要なのか」についてのパネルディスカッションを行い、会場の皆さまと一緒にワクワクとした未来を考えます。			
12:55 ▶ 13:40		ランチョンセッション				
AIエージェント元年！企業を進化させる 次世代AI活用の最前線 L-1 2025年、「AIエージェント」がビジネスを根底から変革する元年となります。本セッションでは、AI導入・DX実現の第一人者であるエクサウィザーズ大植が、企業の経営層やIT・事業部門のリーダーへ、この変革期を勝ち抜くための次世代AI活用戦略を提案します。単なる業務効率化を超え、個々の従業員に寄り添うAIパートナーが活躍し、専門領域の高度化や、あらゆる現場での創造的な自動化が加速する未来とは、最先端のAI技術をいかに安全に社会実装し、企業全体の「新たな価値創造」へと繋げるか。具体的な事例やデモンストレーションの構想を交え、想像を超える未来への挑戦を支援する実践的アプローチを解説します。 株式会社エクサウィザーズ 株式会社Exa Enterprise AI 大植 択真 氏		今こそ目指すべき「AI Ready」な企業とは ～人とAIとの共存・協働に向けて～ L-2 日本社会が直面する構造的な課題への解決策としてAIが注目されている一方で、世界4,500名のエグゼクティブを対象にした『AI成熟度診断』ではAI技術の進化が企業の変革スピードを遥かに凌駕しているという驚きの事実が明らかになりました。本セッションでは、業務の現場でどのようにAIと人が共存・協働していけるのか具体例を紹介するとともになぜ今「AI Ready」であることが企業にとって不可欠なのかをお話しします。 ServiceNow Japan 合同会社 南郷 理恵子 氏	データが動かす！組織に浸透する セキュリティガバナンス改革と成功法則 L-3 近年、脆弱性を突いたサイバー攻撃が増加し、多くの企業がセキュリティガバナンスに課題を抱えています。KPI未設定、IT資産の把握不足、体制やツールの未整備、経営層の関与不足が主な要因です。本セッションでは、継続的な改善とルール遵守を実現するためのベストプラクティスを紹介し、組織全体のセキュリティ強化に向けた実践的なアプローチをご紹介します。 タニウム合同会社 三浦 貴将 氏	課題意識が未来をひらく ～AIとともに歩む価値創造の実践～ L-4 テクノロジーやビジネス環境の変化が激しい現代において、持続的に価値を創出していくためには、課題を的確に捉える視点と、それを解決へ導く力が求められます。なかでも重要なのは、日々の業務に埋もれた不安や不満といった「見過ごされがちな課題」に気づくことです。本講演では、それらを課題として捉え直し、AIを活用してどのように価値へと変換していくか、その具体的なアプローチを事例とともにご紹介します。 Mileto株式会社 高橋 康文 氏	PoCで終わらないDX ～生成AIで再構築する開発基盤 L-5 多くの企業で「要件定義」と「受け入れテスト」が分断され、PoC止まりのDXが繰り返されています。本講演では、生成AIと自動化を活用して両工程を接続し、仕様の構造化と検証の標準化によって、継続的に進化する開発基盤を構築する方法をご紹介します。PoCに終わらず、実装・運用までつなげるための実践知を、先進企業の事例を交えてお話しさせていただきます。 オーティファイ株式会社 西田 淳 氏	事業継続を守る！ランサムウェアからの データ回復力強化 L-6 ランサムウェアの脅威が増大する中、データ回復力（データレジリエンス）の強化は、企業の事業継続において欠かせない要素となっています。経産省、金融庁、厚労省などのガイドラインでも、攻撃時に確実にデータを回復できるインフラや組織体制の整備が強調されています。このセッションでは、実践的なソリューションを通じて、データの安全性を確保し、安心して事業を継続できる方法を提案します。 ヴィーム・ソフトウェア株式会社 古舘 正清 氏
13:55 ▶ 14:45		特別講演 K-4				
 レッドハット株式会社 常務執行役員 技術営業本部長 三木 雄平 氏		AI時代の“2つの世界”をつなぐ架け橋 ～Red Hatが描くオープンで柔軟な未来～ 新たな価値創造と併せ、既存事業を維持拡大していくことも企業が持続的に発展していくには大切です。これらを支える既存業務やレガシーシステムを安定に運用しつつ、AIによる変革を進めていかなければなりません。「既存のシステム業務」と「生成AI」で成り立つ“2つの世界”を橋渡しするRed Hatの戦略と、“Any model, any accelerator, any cloud”を実現するハイブリッドなAIプラットフォームについて解説を行います。生成AIやLLMを活用するための最新技術や国内外の事例を紹介し、AIの未来はオープンで柔軟であるというビジョンの共有を図ります。				

15:00▶16:00

フォーラムセッション

企業価値向上につなげるAI×データ活用とは

F-1

AI活用が各社で進んできているものの、「チャット中心の利用方法が中心で、2の矢、3の矢が打てていない」のが現状ではないでしょうか。また、AIの活用度をさらに高めていくためには、データ整備・活用が必要な状況となっています。本セッションでは、技術の進歩をビジネスの成長につなげていくための各社の挑戦を共有し、皆様とともに企業価値向上につなげるヒントを考えたいと思います。

進行役：伊藤忠商事株式会社

浦上 善一郎氏

進行役：株式会社ジェシービー

松本 一宏氏

進行役：住友林業株式会社

鈴木 英文氏

ITグループ会社における人材戦略～Mode1/Mode2とスペシャリスト/マネージャーの育成と活用～

F-2

IT組織の役割（Mode1とMode2）と、人の役割（スペシャリストとマネージャー）の視点から、ITグループ会社の人材育成・活用の課題と取り組みを議論します。マネージャー職へのシフトや提案型人材育成の課題など、各社の現状や解決策を共有し、多様なIT人材のキャリアパスと効果的な組織運営の未来を探ります。

進行役：株式会社NSP

島田 洋一氏

進行役：株式会社JR東日本情報システム

山本 吉宣氏

進行役：東京海上日動システムズ株式会社

須内 健夫氏

進行役：プリチストンソフトウェア株式会社

高橋 剛士氏

生成AIでセキュリティを進化させる：グループ貢献に向けたユーザー系IT子会社の挑戦

F-3

生成AIの活用は、RAGを使った社内ナレッジの共有や開発業務の効率化といった“自社内の成果”として一定の手応えを得つつあります。一方で、IT子会社としてグループ企業全体にどのように貢献していくか、特にセキュリティ領域での支援が強く求められています。本セッションでは、生成AIを活用したセキュリティコンサルティングや脆弱性情報の優先度分析といった実践事例をもとに、IT子会社が果たすべき役割や、グループ全体の“守り”をどう進化させるかを皆さんと共に考えます。

進行役：近鉄情報システム株式会社

長村 和也氏

進行役：株式会社東レシステムセンター

大林 寛直氏

進行役：日鉄ソリューションズ関西株式会社

森川 憲治氏

スクエア事例セッション

JUASクローズアップセッション

データとデジタル技術を活用した新たな価値づくりへの挑戦～「モノ」から「モノ＋コト」への変革～

S-1

当社では「環境と空気の新たな価値を提供し、サステナブル社会への貢献とグループの成長を実現する」を戦略経営計画に掲げ、「変革を支えるデジタル化の推進」を戦略達成に必要不可欠な重点テーマとしてDXを推進しています。データを活用したソリューションビジネスや業務プロセス変革、デジタル人材育成などの事例とそれら進める中で見てきた課題についてご紹介します。

モデレーター：JUASスクエア2025プロデュース委員会

ダイキン工業株式会社

廣瀬 忠史氏

ライオン株式会社

島村 和良氏

Software Defined Societyの波を捉えて価値創出へ

X-1

2025年3月に（独）情報処理推進機構ソフトウェアモダナイゼーション委員会から「ソフトウェアのネクストステージ」が公開され、社会課題対応と事業価値創出にソフトウェアが持つ力を引き出していく重要性が訴求されました。私たちは不確実性が高まる時代の転換点において、デジタル技術を実現しているソフトウェアの特性を適切に理解し、幅広く有効活用して高い価値を生み出す上で「何を考えどう行動すべきか」を論じます。

パネリスト：株式会社NTTデータグループ

端山 毅氏

パネリスト：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会常務理事

藤本 礼久氏



16:15▶17:00

コンサルティングセッション

マルチクラウド時代の運用変革～JALデジタルが挑むAI活用～

C-1

価値あるサービスを提供するために、多くの企業がマルチクラウド活用に取り組んでいます。その目的は、適材適所による機能の充実、ベンダーロックインの排除などによる投資並びにコストの適正化を可能とする必要条件の一つであるからです。一方、マルチクラウドの推進には運用負担の増大や深刻さを増す人手不足への対処などの課題を伴います。課題解決の鍵になるのがAIによる効率化や自動化です。AI活用に挑むJALデジタルと共に、どう実践するかを議論します。

IIMヒューマン・ソリューション株式会社

JALデジタル株式会社

岡岡 崇氏

河野 雅輝氏

経営判断を加速する次世代ナレッジ戦略～部門を超えて拡がる変革～

C-2

属人化や情報の埋没、部門間の分断などの組織課題を解決する次世代ナレッジ戦略を紹介します。アシストでは検索、動画、生成AIなどの最新技術を活用し、全社的なナレッジ共有と循環の推進と共に、DXの文化変革にも挑戦しています。自社や大手企業での事例を中心に、ナレッジが部門を超えてつながり、単なる製品導入ではなく、組織文化を含む総合的な変革の視点を提供し、組織のナレッジを新たなイノベーションへ繋げるヒントをお伝えします。

株式会社アシスト

佐子 雅之氏

レガシーからの脱却と変革～ANAの挑戦：「DX×人」でワクワクを届けるANA CX～

C-3

ANAでは、お客様体験を整理した考え方である「ANA Customer Experience（以下、CX）」を創造しました。その考え方を基に収集したお客様データを利活用することで、人の温もりあるサービスを提供しています。今回の講演では、CX向上に向けた、レガシーシステムからの脱却と変革、革新的なテクノロジーの導入や運用の高度化など、具体的な取り組みと成果をご紹介します。

ANAシステムズ株式会社

鈴木 敦之氏

株式会社アイ・アイ・エム

有住 栄輔氏

経営戦略を支えるITガバナンスの核心～変革を主導するリーダーシップ～

C-4

ITガバナンスは従前の「守り」から、経営戦略を積極的に支援し、企業価値を最大化する「攻め」へと進化が求められています。本セッションでは、多くの企業が直面する経営戦略とIT戦略の溝を埋めるため、戦略間の整合性、統制すべきマネージメント領域、そしてAI等の最新技術の駆使など、真に経営に貢献するITガバナンスの核心を解説します。リーダーが変革を主導し、持続的成長を実現するための実践的な指針を提示致します。

Ridgelinez株式会社

伊藤 清隆氏

AIネイティブで本業を牽引！欧米を追い越す為のモダナイゼーションと業務改善(仮)

C-5

昨今の貿易摩擦、中国台頭等の厳しい経営環境の中、AIの大波は仕事の姿を大きく変えようとしています。本セミナーでは、北米の最新AIトレンドも含め、米中のIT進歩と比較しながら、日本ITの根本的な問題を解き明かし、製造の国、日本の最適なITを実現するヒントを、日本TOP200社中60社以上に採用されたAIモダナイゼーションのシステムリフォームを例として解説します。・日本ITの成長を阻む問題：軽視されるIT技術とその構造的な要因・AI技術で大きく容容するシステム開発、保守に対応する最適なモダナイゼーション・新しいIT技術でこそ可能になる業務改善豊富なシステムリフォーム事例と米中ITの紹介で、皆様のご参考になれば、幸いです。

株式会社ソフトロード

大橋 順二氏

楽天トラベルのめざす『AI×品質保証』～0カスタマー・ディスサティスファクション～

C-6

テクノロジーの進化と激しい競争の中、トラベル業界では一層の効率化が求められています。そこで、楽天トラベルではQA後の問題、環境問題、マニュアルテストの問題、AI活用の問題それぞれにおいて「0カスタマー・ディスサティスファクション」を掲げ、効率化を推進しています。本講演では、楽天トラベルとバルデスが「0カスタマー・ディスサティスファクション」をテーマに、AI活用と効率化の戦略をディスカッション形式で解説します。

楽天グループ株式会社

藤原 史和氏

バルデス・ホールディングス株式会社

石原 一宏氏

17:15▶18:15

フォーラムセッション

情報子会社が挑戦する価値創出

F-4

多くの企業がDX推進に取り組んでいる中で、情報子会社に求められる役割も大きくなっています。事業成長をデジタルで牽引する役割を担う情報子会社の社長として、「価値」についてどう考えているか、それを創り出すために、どんな思いで各種取り組みや人材育成、組織改革などに挑戦しているかをご紹介します、会場の皆様と一緒に考えてまいります。

パネリスト：株式会社IHIエスキューブ

加藤 格氏

パネリスト：株式会社DNP情報システム

宮本 和幸氏

パネリスト：日本ハムシステムソリューションズ株式会社

田口 稔氏

生成AIの真価を引き出す鍵～不確実性との「最適な関係」を築く～

F-5

プロンプト記述の巧拙にかかわらず、生成AIが生成（導出）するコンテンツに満足できなかったことは少なくないと思います。生成AIが生み出すコンテンツの不確実性はビジネスに生成AIを活用する際の懸念となり得ますが、不確実性をも許容した事例を紹介しながら、不確実性の低減努力と許容判断の折り合いについて考えます。

進行役：東京海上日動あんしん生命保険株式会社

石田 哲也氏

進行役：株式会社JPX総研

藤原 道雄氏

進行役：みずほ証券株式会社

小林 弘明氏

進行役：ヤマハ株式会社

石井 厚生氏

未来を創るIT投資戦略～価値を生むフレームワークの全貌～

F-6

急速に変化するビジネス環境において、IT投資はもはや単なるコストではなく、未来を創る戦略的投資です。IT投資戦略に唯一の「正解」がない中、各社はどのフェーズで、どんな指標に基づいて判断を行っているのでしょうか。本セッションでは、各社の事例を交えつつ、価値創出に繋がるIT投資の考え方と、その実践的なフレームワークについて、皆さまと共に考えてまいります。

進行役：SOMPOひまわり生命保険株式会社

吉澤 浩史氏

進行役：三菱ケミカル株式会社

小嶋 眞氏

進行役：ライオン株式会社

木下 陽児氏

スクエア事例セッション

JUASクローズアップセッション

金融機関におけるサイバーセキュリティの課題と対策

S-2

お客さまからお預かりした金融資産と同様に、情報資産を安全に管理することが信用を重んじる金融機関として果たすべき重要な役割であり、みずほフィナンシャルグループでは、サイバー攻撃を経営のトップリスクの一つとして位置づけ、サイバーセキュリティ対策に全グループを挙げて取り組んでいます。フィッシング詐欺やサプライチェーン攻撃等、金融機関ならではの脅威、課題、対応に向けた組織体制、現在取組んでいる具体的な事例等をご紹介します。

株式会社みずほフィナンシャルグループ

寺井 理氏

モデレーター：株式会社資生堂

廣部 收治氏

「持続成長する100年ベンチャーに挑む」トプコンのDXの取り組み

S-3

当社は、世界的な高齢化や人口増加、温暖化や異常気象の頻発化に伴う社会的課題に向き合い、医（ヘルスケア）・食（農業）・住（建設）の領域でDXを推進しています。「持続成長する100年ベンチャーに挑む」という長期ビジョンの下、日本のモノづくりと欧米のソリューションビジネスを組合せた独自のビジネス創出力を強みに、持続可能な社会の実現を目指す取り組みを紹介します。

モデレーター：JUASスクエア2025プロデュース委員会

株式会社トプコン

伊藤 嘉邦氏

齊藤 史朗氏

JUASクローズアップセッション

データの力によるサステナブルな成長

X-2

本研究会は2022年の報告書「データ経営が日本を変える！」において、ビジネスとITが一体化した「データ経営」を実現するための方法論や組織のあり方を提言しました。その後も「データ中心型ビジネスアプローチ（DOBA）」の本質について議論し、2025年度からは「データとデジタルの力でビジネスをトランスフォームする」ことを標榜し、「BX by Digital 研究会」として各自の実践に基づく討議を進めています。

BX by Digital 研究会

12:30▶18:00

ブース展示

B-1

The Universal AI Platform™が拓く、全社規模のAI活用とコントロール

生成AIやエージェント型AIといったAIをビジネスの成長の武器とするには、AI利用に伴うコスト、部署ごとの用途や方針、急速に進化するテクノロジーなど、さまざまな「カオス」をコントロールすることが不可欠です。The Universal AI Platform™であるDataikuは、組織全体でのAI活用を可能にすると共に、中央でのガバナンスを実現。さらにその使いやすさにより、アナリティクス、機械学習、生成AI、エージェント型AIの拡大を可能にします。

18:25▶19:25

ネットワーキングパーティ

K-5